

日本発ウィーン便り : Wiener Eistraum

何回行っても、いつ行ってもウィーンって本当にいいところです。

統計には色々ありますが、2016年2月に発表された、世界最大のアメリカの組織・人事マネジメントコンサルティング会社 Mercer 社の毎年行っている、『世界生活環境調査(Quality of Living Survey)』¹では7年連続で、ウィーンが最も生活環境の水準が高い都市にランキングされています。

ウィーンと言えば、オーストリアの首都。人口は約180万人です。ウィーン市の発行しているデータによれば、2014年の観光客数は延べ1440万人。この数はホテルに泊まった人の数なので、日帰り旅行とかの人は含まない数字です。

なんで急に統計が出てきたかという、ヨーロッパの都市の中でウィーンより年間観光客数の多い都市はロンドン・パリ・ローマ・ベルリン・マドリッド・プラハと、6都市ありますが、この6都市のいずれも生活水準の高い都市のトップ10には含まれていないです。

何が言いたいかと言うと、ウィーンはヨーロッパでも他に例がないくらい、観光客からも住民からも評価の高い街なんです。

実際、ウィーンの街はもちろん市を挙げて観光にも力を入れていますが、季節を問わず、イベント上手というか、遊ばせ上手というか、観光客だけではなく、市民も満足させる仕掛けで一杯です。

大晦日から新年の街をあげての盛り上げ方もそうですし、年が明ければスケートと舞踏会の季節の始まり。春には芸術イベントが盛りだくさん。夏の野外音楽会、秋には映画祭やオペラや音楽の新シーズンが始まり、クリスマスの時期にはその場にいるだけで楽しくなるようなクリスマス市が街のあちこちに。

多くの美術館は月に1度は入場無料で開放されていたり、夏には夜中まで開いている日もあります。演劇・オペラとバレエ・オペレッタ・演奏会・ミュージカル・コンサート専用の劇場だって充実しています。

王宮もあれば世界遺産もあり、動物園も大きな公園もあるし、交通網も発達していて、水道水は美味しいし、街は綺麗で安全。とあんまり悪いところが見当たりません。

そして色んなイベントの中心の一つになっているのがここ。Rathaus (ラートハウス：市庁舎) 前の広場です。



なんだか前置きが長くなりましたが、クリスマス市が終わって、年が明けると、ここ Rathaus 前には毎年スケートリンクが登場します！その名も Wiener Eistraum (ウィーンの氷の夢)

大きなスケートのリンクが2つに小ぶりのリンクが1つ。あといいなあ、と思ったのが、市庁舎前の大きな公園の中の木々や噴水の周りを縫うように走るコース。そこを滑ったら、きっと庭園を散歩する感覚だと思えます。夜は市庁舎のライトアップはもちろん、コースを照らす明かりに夜店の明かりも加わって、

沢山の人が賑わっていて、クリスマス市とはちょっと違うキラキラして素敵な場所になっていました。

¹ <http://www.mercer.co.jp/newsroom/2016-quality-of-living.html>

入場料は大人 7.5 ユーロ（貸靴は別料金が必要ですが、マイシューズ持参の人も多いようです）。時間制限はなさそうです。シニアや子供、家族割引や期間中滑り放題のパスなど、料金体系は色々。

ちょっと小ぶりのリンクは、右の貼り紙に書いてあるように、平日の 9 時から 16 時と土日は終日、子供と初心者は無料で練習できます。そりゃみんな上手くなりますよね。

ちなみに同じく貼り紙に書いてある Eisstockbahn（アイスシュトックバーン）とは Eisstockschießen²（アイスシュトックシー



セン）という名前のスポーツのためのコースのことで、行ったとき、ちょうど何チームかがプレーしていて、こんな（左の写真参照）感じのものを氷の上に放り投げていました。プレーしているのを見ているとよくルールが分からなかったのですが、近くのプレーしている人に「これなに？」と聞いたところ、簡単に言えば「氷上のボーリング」みたいな感じとのこと。後で調べてみると、13 世紀ごろのスカンジナビアが発祥とされるカーリングによく似たスポーツで、ドイツ・オーストリアやイタリアとオースト

リアの国境あたりのトレンティーノ＝アルト・アディジェ自治州/南チロル自治州あたりでは一般的なウィンタースポーツの一つで、WM³（Weltmeisterschaft：世界選手権）までありました。☺

で、脱線しましたが、この日、平日の夜 7 時位でしたが、Rathaus 前は大賑わい！でした。



Rathaus 正面の一番大きなリンク。リンクの整備が終わるまで待つ人々と、やっと入場のお許しが出来、一気に滑り出す人々。みんな上手やなーと感心しながら見ていましたが、やっぱりコケてる人、おっかなびっくりの人もいましたよ。

食事にデザート、おやつ。もちろんアルコールや、冬の定番 Glühwein（グリューワイン：ホットワイン）まで、必要な夜店は全部揃っていますので、時間や空腹を気にすることなく、気が済むまでスケートを楽しめます。リンク周りや夜店周り、トイレへの動線も含め、人の移動する所は全て木の床が準備されていて、スケート靴のままでも移動が容易になっているのが、なかなか気が利くな。と思ったポイント。

² 興味のある方はどうぞ。 <https://de.wikipedia.org/wiki/Stockschie%C3%9Fen> 残念ながら日本語はありませんが、英語訳は出てきます。

³ 2016 年にも世界選手権開催されていました。 <http://www.wm2016.ritten.info/index.php>



会場全体の見取り図はこんな感じです。公園を走るコースが（遠目に見た感じとか照明とか雰囲気とか）と〜っても素敵だったので、ちょっと滑ってみたい、って気分になりました。



観光客が滞在中にスケートまで。というのはなかなか時間的に難しいかもしれませんが、こんなロケーションで現地の人に交じってのスケート。なんだか特別な旅の思い出になりそうです。

いつも魅力的な街ウィーンの冬の楽しみでした！